

# 生涯学習情報 9月

2021

September

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第333号



## 大島地区ジュニアリーダー研修会

## 青少年ふるさと美化活動 (7/25)



大島地区ジュニア・リーダー研修会が、7月29～30日まで(2泊3日)、奄美少年自然の家にて実施されました。大島管内の中学生～高校生まで28名が参加、大和村からは、大和中2年の佐藤一花さん、岡本こほろさんが参加しました。ジュニア・リーダーとしての現状・課題や、組織の運営等に必要な知識・技能に関する研修を受けました。



県内市町村一斉に、青少年の心の教育や環境教育の一環として地域ぐるみによる一斉清掃美化活動を実施しました。村内でも各子ども会が集落の美化活動を実施しました。



## 通学路安全点検 (8/24)



通学路の安全点検を各関係機関と合同で実施しました。子ども達にとって危険な箇所がないか専門的な目線で点検し、対応が必要な箇所は速やかに対応を進め、安全な通学路となるように努めていきたいと思っています。

## コロナ禍の人権について考えよう

～感染者とその家族に思いやりを～

感染者や濃厚接触者を過剰に避けたり非難したりする差別や偏見が全国的に生まれています。中にはプライバシーなどの人権を侵害しかねない事例も見られます。ウイルスには気を付けても誰でも感染する可能性があります。相手の立場に立って、正しい知識をもとに、感染者とその家族に思いやりを持って接しましょう。

また、新型コロナウイルスのワクチン接種に関しては、強制ではなく、感染予防の効果と副作用のリスクの双方について理解した上で、ご本人の意思で受けるか受けないかの判断をしていただいています。受けたと思っていても、体質や持病など、様々な理由で接種を受けることができない人もいます。接種を受けない人に対して接種を強制したり、職場や学校等で不利益な取り扱い、差別、いじめがあってははいけません。一人ひとりがそれぞれの立場や状況に配慮し、冷静な行動をお願いいたします。

## 昭二兄よの四方山話 (よもやまばなし)

### 爆弾ごもり



終戦前アメリカの飛行機が落とした爆弾で出来た「こもり」が昭和37年頃まで残っていた。場所は現在の大和保育所辺りだと思ふ。川の横に落とされたので潮の満潮時には潮水が入り大きな池のようでもあった。こもりは直径6～7m、深さは子供の胸くらいになり、川の汽水域(水と潮水が交わり合う場所)になるため小さなマングローブ林の環境になっていた。そのために現在は見かけることがない小生物などが多く生息していた。こもりの周囲には、いぐさ「シチトオイ」が生え、子供の遊び場として思い出深いこもりであったが、特に夏休みになると子供たちが集まり「こもりぐん」という遊びをよくやっていた。こもりの中に数人の子供が入り暴れると中が酸欠状態になりウナギやフナ、ボラなどが浮いてくる遊びで、爆弾ごもりでやるこの遊びは懐かしい子供時代の風景である。また爆弾ごもりにいたタンツムイ(汽水に生息するカニで親爪が黄色いのがキイタンツムイ、青いのがオウタンツムイと呼んでいた)や、ツムイハツキヤ(穴じゃこ)などは水槽に入れ飼っていたが、何処かで生き延びていることを願うものである。また子供たちの遊び場であった爆弾ごもりは漁師にもよく利用されていて、魚のアギ(エラ)に通すヒモ代わりにワラより強い、いぐさを利用して、大和保育所辺りを通ると子供時代のあの頃遊んだことが昨日のように浮かんでくる爆弾ごもりである。

(大町博之氏との雑談から)

## 9月の花 (彼岸花～ヒガンバナ)



彼岸花とはヒガンバナ科・ヒガンバナ属(リコリス属)に分類される球根植物です。日本や中国に広く自生し、秋の彼岸の期間(秋分の日を入れた前後3日間)だけに花を咲かせることに由来して名付けられました。9月頃になると赤や白、ピンクなど花を咲かせるのが特徴です。

別名、リコリスや曼珠沙華(まんじゅしゃげ)とも呼ばれています。彼岸花は「まず花が咲き、後から葉っぱが伸びる」という通常の草花とは逆の生態をもっています。その葉と花と一緒に見ることがない性質から「葉見ず花見ず」と呼ばれ、昔の人は恐れをなして、死人花(しびとばな)や地獄花(じごくばな)などと呼ぶこともあります。